

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム	申請大学名	大阪大学
申請大学長名	平野 俊夫		
プログラム責任者	井上 克郎		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施計画に関しては、全体として非常に順調に実施されている。また、連携研究機関、連携企業、海外連携研究機関との所要の体制整備などが確実にこなされている。 ・大学として採択以前から取り組んできたプログラムの推進ということで立ち上がりの速さを感じた。組織マネジメント体制もしっかりしているように見受けられた。 ・採択時の留意事項であったリーダーシップの熟成の視点での改善の必要性に対して、セミナー、ワークショップの内容を見直し、講演者としてベンチャー企業経営者（起業家）や起業家育成塾主宰者を新たに招聘するなど真摯にさまざまな取組を実施していることは評価できる。 ・定員 20 名に対して 28 名が選考を経て入学したことは、学生側の新しい研究領域への意識の高さと同時に大学側の本プログラムへの熱意が感じられ今後が期待される。 ・背景知識の異なる大学院生がお互いの領域の融合に関する自律的な徹底した議論や合宿討議、さらには共同研究まで行う「齋同熟議」が徹底して実施されており、今後、その効果に期待したい。 ・グローバルリーダー養成に関して、さまざまな工夫がなされており、このまま順調に進むことが期待される。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業との連携も積極的に取り組んでいるが、まだ企業内研究所との連携にとどまっており、企業側の期待に応える人材育成に向けた産学双方の今後の努力に期待したい。 ・学修進度の異なる学生に対する教育（脳科学を専攻する者への情報科学の教育、情報科学を専攻する者への脳科学の教育など）については、配慮が必要と感じた。 ・これまで取り組んできた、あるいは、設備などを準備してきた脳研究や生命動態では研究プロジェクトと教育との連携がしっかり行われている。一方で、情報系のプロジェクトに生物系の学生がどう取り組むかについては今後に期待したい。 ・多くの学生がこのプログラムに参加し、異分野の学生間の交流も積極的に行われているが、プログラム参加学生は具体的な学際研究に取り組むだけの教育的なバックグラウンドや具体的な研究テーマをもっていないわけではないので、今後さまざまな壁にぶつかるものと思われる。これらの問題について教員の適切な指導や教育をお願いしたい。学生の自主性を尊重するものの、どういう課題を解くにはどういう分野の勉強が必要かなどの情報を適切に学生に提供することが望ましい。 ・1期生の学生にとっては、新しい研究領域ということもあり目標となる先輩が存在しないという状況であり、不安を感じている学生も存在する。教員側のきめの細かいサポートが必要となる。学生と教員が協働して構築していくというスタンスが良いのかもしれない。 			